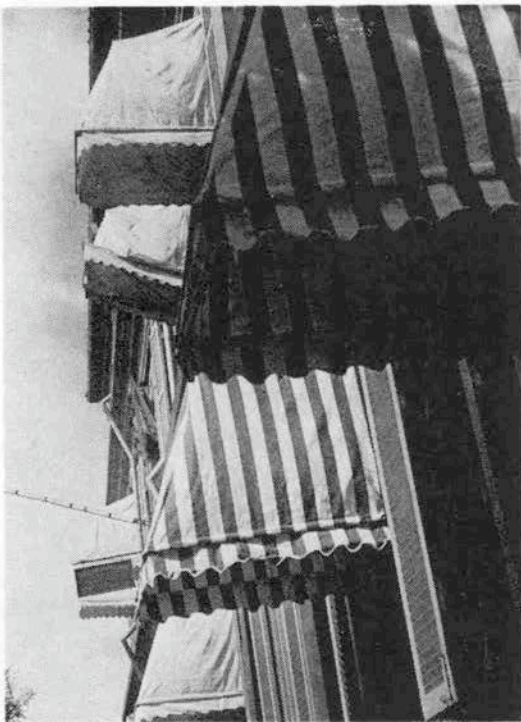


高層ビルの中の 旧居留地

文・写真

林田重五郎

〈元・新聞記者〉



昭和11年夏（1936年）写す。神戸市中央区の浪花町あたり。旧居留地の商館の窓の日おおいはその美しさ、なんと叫びえなかった。

旧居留地に入って、まずうれしい光景に出会えた。大丸の東側を南へ進んで右の角、ザ・ナショナル・シテイ・バンク・オブ・ニューヨークの支店があったビルの復元工事が進んでいるのだ。

説明板を読むと、1928年W・M・ヴォーリズさんの設計で建てられ、今まで60年の歳月が経つ。関西学院や女学院の設計もされ、日本名が「一柳米来留」さん、近江兄弟社を作られたとある。同社の薬品は数十年間、座右に備えて親しんだが、設計の話は始めて知った。

工事用のおおいのかむされた建物の中で、「リ

ブ・ラブ・ウエスト」という名の、家具・食器などの店がにぎわっている。一隅の軽食堂で冷たいものを飲んだあと、店を守る婦人に話を聞く――。「わたしの店の本店は東京で、ここは大丸さんに借りています。復元工事は9月末には完了の予定と聞いております。」

完工のあと、このなつかしい建物を見るために、是非再び訪れたいものだ。連日旧居留地を歩き始めたのは昭和9年夏からであった。7年の春朝日入社、神戸支局に配属され、兵庫署、菊水橋署などを回っていたのが神戸水上署担当になった



昭和11年夏(1936年)写す。神戸市中央区京町の旧居留地。商館のなかのトンガイ板べいの風景が面白い。(いまは北野町にごく一部残っている)男性は流行のパナマ帽、女性は中国風の日がさ。

からである。支局は栄町5丁目にあった。市電で元町1丁目下車、東へ向いて歩き、たしか北側にあったレーン・クロフォードのショールウィンドをながめ、イギリス製のレインコートをいつの日か手に入れたいなどと考えながら、明石町の角、つまりナシヨナル・シテイ・バンクの辻を南へ回わる。

東側の歩道を進むと商船ビル、1階の船客係へ顔を出して大連航路、台湾航路などのニュースになりそうなお客の名を覚えてもらう。

それから海岸通りを渡って水上署へ。当時は外国航路用突堤への入口が日本と海外との接点だった。税関の監視が出入者をきびしくチェックする。出入国者について水上署の外事係、特高係の調査も嚴重である。これらの係や司法、刑事係の部屋を回わり、同じ建物の3階の税関港務部へも

足でのぼる。

ニュースがあればハイヤーを呼んで突堤の船へとんでゆく。郵船支店や海員組合本部にも寄る。平日は午後もう1度水上署へ、週2回の夜勤の日はこの2度目の時間を遅らせ、暗い京町筋を当時の三宮署へと歩く。旧居留地は人影もなく、わがクツの音のみがコツコツ…。道を照らす白い光があったが、いま大丸北側に1基立てられて残っている開港以来の英京ロンドンの銘入りガス灯であったのか、のちに代えられた電灯であったのか、恥しい話だが全く覚えていない。元居留地歩きは12年夏の盧溝橋事件後の従軍まで続いた。

慶応3年に設けられ、明治32年7月まで続いた居留地、木部をうすいグリーン色にぬった商館は、50余年前の私の水上署時代にもまだ多く残っていた。窓の日おおいの美しさ、頭を三角にとがらせ

たトンガリ板べいの面白さ。(北野町に今も少し残っているが…)元居留地を歩くとものはなんともいえぬ安らぎであった。

(商船ビルの東側にあった光塔のオリエン



昭和11年夏(1936年)写す。神戸「旧居留地」風景。「ヘルム・ブラザーズ株式会社」という社名標の美事さ。

タルホテルで月に1回開かれた海岸記者と水上署記者の合同お茶の会など楽しいこともいろいろ多かった。

そしてそれは昭和11年夏だった。支局の先輩がコンタックスを買った。ライカ同様、月給3カ月分の価格、「パチパチとテストして来てほしい……」といわれ、足は旧居留地へ、目的もなく西から東へ、南から北へとぶらついて商館をフィルム1本分36枚うつして歩く。こんなことがなければ目的のない市街撮影はしなかったらう。

ところが商館の老朽化、ビルへの立替え、そこへ戦争と10年後に旧居留地は一変してしまった。この36枚の写真は意味を持って来た。ここに掲載の分はその一部であるが、52年後のいま、なつかしさはひとしおである。

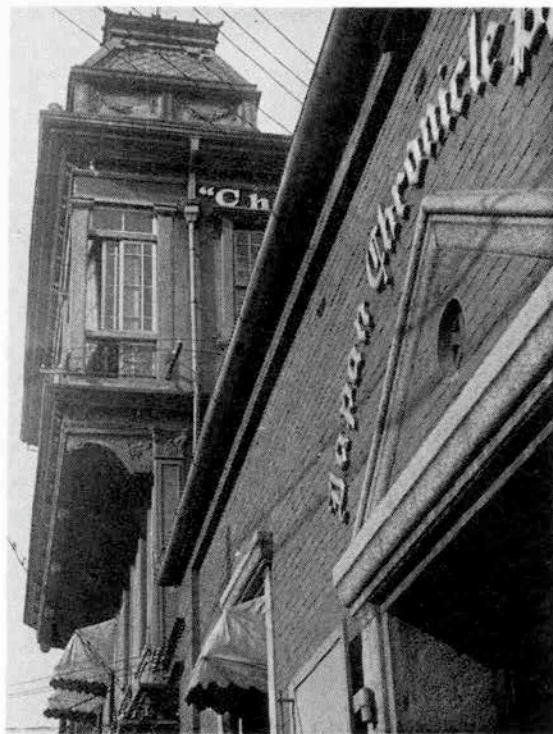
なぜあのころの旧居留地の歩き心地が最良だったのか、いまゆっくり考えてみると、道路のアスファルトが上等だったこと、両側に広い歩道が完備していたこと、が思い当る。他所では地道も多かったし歩道も少なかった。商館を主調とした町のまとまりも有難かったのではないか。

昔をしのびながら、居留地内を歩いて見た。昔そのままの、商館15番館のノザワ株式会社がなつかしい。保存にあたられる方は大変だろう。

浪花町で昔ながらのレンガの倉庫が残っていた。宮城道雄さん生誕の五十八番館の碑、「春の海」が流されるとある。

新しいビルが思い思いの美しさで新築されていた。食堂もある。商店もある。戦争で第一期が終った元居留地はいま第二期がほぼ完了した時期なのであろう。ガレージも目立つ。

そう思いながら水上署前から西南をながめると



昭和11年夏（1936年）写す。神戸市中央区の旧居留地、浪花町にあった英字紙ジャパン・クロニクルの建物。

地上35階の高い高いビルが建ちつつある。ホテルだそう。居留地のまん中にはこれまた何十階の銀行が完成している。北東部の花時計のすぐ西南には20階以上と思われるビルがカガミのように輝いている。市役所の南にはこれも30階ほどの新庁舎の建設がおこなわれている。

第二期をほぼ終わった旧居留地は、高層ビルが林立する第三期へ足をふみ入れたのであろうか。



□ エッセイ・6

煙と何とかは
高く上る

田中 千佳 〈作家〉

カット／西村 功

人間には生れついた性格というものがある。いろんな要素がモザイクの様に混り合って一人の人間が出来上っているが、私の場合、積極的という

要素が大きいように感じられる。

小さい頃から何でも試してみたかったし、新しいものに興味があった。教師にとっては何をしてもかすか判らない危険な子であつたらしく、よく睨まれたものだ。

何でもやってみたい、知りたいという気持は今もおとろえていない。年だからとか、女だからという理由で、あきらめたり方針を変えたりはしないことにしている。

このところ、私は一枚の写真を持って歩いていく。人に会うと、

「これ私なの」

と見せて、相手の反応を楽しむ。

優雅であることを誇りにしているA夫人は

「まあ、これ本当に奥様ですの。何て御活発な」とあきれ果てた顔をした。

「気持よさそうですね。僕は軍隊で、後から突き落されて、つらかったけど」

と、B氏は感慨深そうだった。

友達のC子は、
「何、これ。この脚どうにかならんの。少しお行儀が悪すぎるわ」と遠慮がない。

その写真で、私はパラセールをしている。パラシュートを背負い、モーターボートに引かせると、パラシュートが開き、空に舞い上る。今、流るのマリンスポーツである。

私は以前からやりたかったのだが、その機会がなかった。先日、パタヤビーチ(タイ国)に行つた時、やっと願いが叶った。

「パラセールやりたい」

と私が言った時、夫はいい返事をしなかった。
「危いから止めた方がいい」

「どうして？危いかどうかやってみないと判らないじゃないの」

私は夫を睨みつけた。

危険かも知れないからって、やりたいことを我慢するなんて、生きている甲斐がない。

——何が何でもやるんだから——
私は堅い決心をした。

係の人が手早くパラシュートと救命具を私の体につけ、

「オバサン、大丈夫ね」

と私の肩をパンパンと叩いた。私はちょっと緊張した。

「スタート」

モーターボートが走り出すと、綱に引っ張られ嫌応なく走らされて、あつという間に体が浮いた。

ボートの速力が出るにつれて、体はだんだん高くなる。青い空、果しなく続く海、何と気持ちのいいことか——

へあーあー、人は昔々、鳥だったのかも知れないね。こんなにもこんなにも空が恋しい。
加藤登紀子さんの歌声が聞えてくる。

空は果しなく広く、暖かく、柔らかかった。

やがてボートが速力を落すと、私はゆっくり降りてきた。地上で待ち受ける人々が駆け寄って来て抱きとめてくれた。

こんなオバサンがパラセールをするのは珍らしいのだろうか。写真を見た人は皆、驚く。そんなに驚くことかしら。少女の頃からお転婆で鳴らした私にとってはどうということはない。

ニューヨークに行った時も、五番街や美術館をあきらめて、ヘリコプターに乗った。

遊覧ヘリコプターは五、六人ずつ一組で、ブルンブルンと揺れながら飛び立つ。

摩天楼は眼下にニョキニョキと立ち、丸で墓場のようなだった。

自由の女神を下に見ると偉くなったような気がする。セントラルパークの緑は深く美しい。屋上にブルンブルンと花を植えているビルも多い。いろんな暮らしがあるものだなあと思った。ニューヨークは意外に小さくまとまり、便利よく出来ているなという印象を受けた。

パラセールを楽しんだ日（実は反対した夫もやってみて、とても面白かったらしいのだ）私は上機嫌で言った。

「フフフ：私って積極的でいい性格ねえこれからの女性のお手本みたいなものねえ」

夫はあくまで冷静だった。

「煙と何とかは高く上るという諺もあることだし、調子に乗るんじゃない」

こんな奥さんを持つと、夫たるもの常に適切が必要だし、妻の躡進する方向を時々、修正しなければならぬ。

我が夫は老化する暇もなく若々しい。これは実に私のお蔭なのではなからうか。私は嬉しくなってしまう。

夫婦とはどういう形で相手に貢献しているか判らない。悪妻といわれている皆さん、自信を持って下さい。



▲筆者紹介 / 本名林陽子。朝鮮京城生まれ。戦後引
き揚げて京都に住む。旧制同志社女専英文科卒。アメ
リカ系商社に就職。結婚、その後出産のため退社、以
来専業主婦。「マイ・ブル！・ヘブン」で昭和六十年
度中央公論女流文学新人賞を受賞。現在、東豊区在住。

お能のまち神戸

米花 稔△神戸大学名誉教授・福山大学教授▽

三宮の小児歯科の先駆者佐本進氏の北野のシアター・ポシエツトで、六月はじめ夏目俊二さんの劇団神戸が意欲的な試みとして、三島由紀夫作の「邯鄲」（かんたん）「葵上」（あおいのうえ）を上演した。四月にもここで「班女」（はんじょ）「卒塔婆小町」（そとぼまち）を見せてもらった。とりわ



卒塔婆小町の神原大介

け「葵上」で小倉啓子さんの演じる六条康子のあやしげな魅力と陰唄の謡曲の効果、また「卒塔婆小町」の神原大介さんの老女の雰囲気などに心ひかれた。夏目さんに教えられて、これらは三島由紀夫「近代能楽集」（新潮文庫）の八篇の脚本のなかのものというのであとで読んでみた。三島作品は能に触発せられた自らの感得を現代劇化しているようで、能そのものを思えがくと理解をこえるが、詩的に何か訴えるものがある。七

月になって東京の劇団が同じ「葵上」と「道成寺」を大阪で上演するというところでこちらは夕刊に大きく報道せられた。いささか不満なジャーナリズムの姿勢である。

それはとにかく筆者の学生時代から謡曲の手ほどきをうけた宇治正夫師が一昨年九二才で他界せられてからは時に師のお宅に仲間の集うのにも出席を怠り勝ちのこのごろ、うえのことに刺戟されて、六月下旬湊川神社神楽殿に能楽協会神戸支部の方々の「国栖」（くず）「班女」「藤戸」（ふじと）などを拝見して久しぶり古典に接した。この立派な能楽殿は昭和四八年五月の再建、地元の産業界、市民、同好の人びとの拠金によるものであった。ここで昭和六〇年五月今も健在の藤井久雄師を中心とする神戸観世会の作品として、大



「菊水」の観世清和師

楠公六五〇年記念の新作能「菊水」が発表され、宗家観世元正師の形付で、その父子、茂山千五郎師などの出演で初演せられたことも余り報道されなかった。

しかしハイカラで国際的神戸の能狂言の文化的背景はきわめて特徴的である。「求塚」（もとめづか）「松風」から源平物語の「敦盛」「般若」（えびら）「忠度」など一〇余曲は、ここを舞台としていることなどはよく知られている。

ここで先年神戸文化ホールで今岡頼子さんのリサイタルに「雪の杜若」（かきつばた）が、また隣の芦屋のルナホールで北山千鶴子ダンスリサイタルには「隅田川」が演ぜられた。そして能謡誌「尚謡」編集の坂元英夫さんは年来謡曲の口語訳を試み、既に四九番におよぶ。毎年の文化ホールの五流能、神戸能、湊川の定期能、いくつかの夏の薪能など詳論は省く。

一〇年前の昭和五三年一月、筆者は神戸新聞芸芸欄に「古さを新しくみる神戸の眼」という拙文に、新旧という常識をこえてつねに創造性を求め続ける神戸を想ったが、今も変わらずにその一面をみて嬉しく思う。

ここまできて「神戸っ子」の小泉康夫さん自身能狂言に造詣深い方であることをあらためて思うことである。



●新神戸オリエンタル劇場柿落し

蜷川「忠臣蔵」は

大雨で始まる！

「新オリエンタル劇場の、オペラ座風のヨーロッパ調の中に『忠臣蔵』の初演の頃(1948年)の舞台を建てて、天窓から差し込む太陽光線と、歌舞伎の原点ともいえるローソクの灯。そこへ1988年のメカニックな照明をあてる。

序幕の「鶴岡八幡宮」の兜改めの場は、どしゃぶりの雨の中で始まる。劇場の中が雨の匂いと、しめった空気で充滿する。運命の力みたいなものを感じる幕開き。

音楽？ ロックでなく今回はオペラでゆく。浄瑠璃の世界をオペラ的な男女の歌手の声で心情を歌わせたいのね。面白そうでしょう？」と、並いる記者陣に、いたずらそうな目を向けるのは「NINA GAWA 忠臣蔵」(仮名手本)を神戸で初公演する演出の蜷川幸雄。「新神戸オリエンタル劇場のオーブン記念に、10月5日より3カ月のロングラン公演する『仮名手本忠臣蔵』の記者会見。主演の近藤正臣も初めて一緒に顔を見せた。発表された配役は

大星由良之助
桃井若狭之助安近
加古川本蔵行國
大星 力弥
与市兵衛
高武蔵守節直

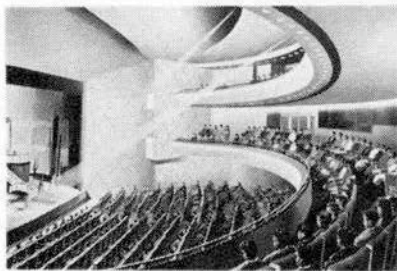
近藤 正臣
大和田 伸也
塚 晴 彦
片岡 孝太郎
不破 万作
成田 三樹夫

塩治判官高良
寛坂伴内
おかる
他、加茂さくらの出演が決まっている。

井上 倫宏
早崎 文司
蜷川 有紀

それにしても、いままぜ神戸で仮名手本『忠臣蔵』なのか。

蜷川、「東京でも、ロンドンでも、神戸でもいいんですよ。中央、地方の格差なく同じレベルで考えています」主演の近藤正臣は、「仮名手本『忠臣蔵』を、神戸で3カ月ロングランするというので、きっと、僕の役は、大石力が勘平だろうと思っていたら、何と大星由良之助(笑)こんな貫禄のないヒーロー玉が、年輪のいる勝負どころの役に凄いい配役(笑)、エライことですよ。今迄の由良之助にない



▶ヨーロッパのオペラ座風の小屋で「忠臣蔵」は初演の1948年の舞台



近藤正臣

可能性を蜷川さんに引き出しても良かった。我々はどうそれに敏感に反応出来るかですよ」

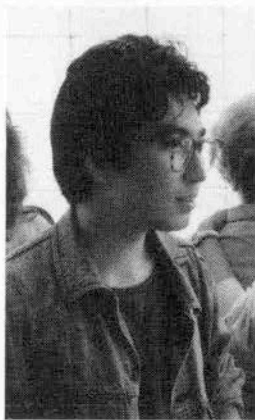
「彼は座長として面倒見がいい。若いものの組織のリーダー、親子、恋、金、いろいろの要素がある忠臣蔵の中で、理想的なリーダー像と、新しい人物像を、人形浄るりや、歌舞伎のコピーでなく見せたい」と蜷川演出を強調する。

「神戸で初のロングランが成功すれば西日本の発展にもなるし、京都生まれとして嬉しいですよ。東京や京都の友人に神戸に見に来い！っていつてゐるんです」と、近藤由良之助の意気込み充分。S席七、五〇〇円、S席五、〇〇〇円、A席三、〇〇〇円。11月を売出中。前売場所/新神戸オリエンタル劇場チケットセンター1078(291)99999、チケットぴあ06(383)99999他。

クリストの出る幕

石橋 宗明

△トアロード画廊▽



六月四日、クリストは五時過ぎに私たちの画廊に現われることになっていた。妻でありマネージャーのジャング・クロードとスタッフを伴って。だが、もうすぐ六時だ。画廊の中は、クリストがどんな男か見てやろうと集まった人々で、トアロード画廊らしくもない華やかな一隅に変わっていた。

僕は意味もなく歩き回るのをやめた、よけいに落ち着かなくなるから。彼らがまだ近代美術館にしていることは分かっている。明日から始まる展覧会のために、展示の状態を確認しているのだ。美術館からの電話によると、ライトの調整でてこず

ているという。照明不足を補おうと苦心惨憺しているスタッフを置いて、先にレセプションには行けないとクリストは言っているのだ。いかにも彼らしい。

僕がいる場所——つまり電話に一番近い椅子からは「ライヒスターク」のドローイングが見える。Reichstag とは旧ドイツ帝国国会議事堂のこと、東西ベルリン両方の領土に接するという複雑な場所に立たされている。帝国議会としてドイツの歴史に加わり、ヴァイマル共和国の短い期間、民主議会として機能していたが、ヒトラーが火を放ち、ベルリンの攻防戦で痛めつけられ、七〇年代初めにやっと西ドイツによって修復された。クリストはこのヴィクトリア朝風の建物を科学繊維の布とテトロン製ロープで梱包しようとしている。ドローイングはそのためのいわば計画図案でもある。重厚に横たわる黒いライヒスタークの姿。僕はそのドローイングからヨーロッパの悲劇と、東西の緊張を演出する冷たい顔を思い浮かべる。



トアロード画廊でのクリスト（1988年6月4日 撮影／荒尾 純）

それにしても、とにかくベルリンに行けと皆がうるさく言う。以前、神戸の居酒屋で若いドイツ人と話す機会があったのだが、その時彼は、君はベルリンに行ったことがあるかと聞く。まだないと答えると、それはよくない、ベルリンを見て初

めてドイツが分かるのだ、というのだ。ドイツ人の彼が言うのだからきつとそうなのだろうと思いい、デュッセルドルフで金物屋ばかり見て歩いてきた自分がいかにも哀れだった。

ブルガリア人のクリストもまたベルリンに強い関心を寄せ、ライヒスタークを梱包しようと十年以上もかけて準備を進めている。

なぜか？

今から三十二年前の十月、クリストはチェコスロバキアのプラハにいた。十月はハンガリー動乱の起こった月だ。地図を開くと分かるが、ハンガリーを通過しなければブルガリアには戻れない。彼は共産圏の人間なのだから。しかし、動乱はクリストに決心を促した。東側に幻滅を覚えていた彼は列車でウィーンに入った。亡命したのだ。

現在はパリで知り会ったジャンヌ・クロードと共にニューヨークに定住している。だが、西と東の過酷な接点ベルリンはクリストの立ち帰るべく都市だった。彼の目的はライヒスタークを梱包することによって、ヨーロッパの人々の悲哀と希望を象徴させようとするところにある。ブルガリア人であると同時に欧州人であるクリストは、特定のイデオロギーとは無縁だ。何よりも彼は人間なのだ。ライヒスタークの梱包が実現した暁には必ずベルリンに見に行こう。それはきつと美しいに違いない。

廊下が賑やかになった。彼らがやって来たのだろう。振り返るとジャンヌ・クロードがもう部屋の中にいた。しかもネコ科の動物を思わせる鋭い目で僕を見ていた。僕は少々面喰らいながら、気の利いた台詞を馬鹿みたいに探していた。

経済ポケット ジャーナル

★神戸ファッションフェスティバル'89発進!



来年秋ワールド・ファッション・フェア(WFF)が、京阪神の三都市で繰り広げられるが神戸での「神戸ファッションフェスティバル'89」の概要が7月13日発表された。

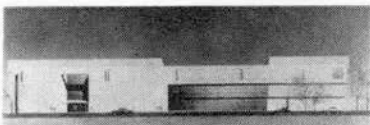
名誉委員長に具原兵庫県知事、宮崎神戸市長、石野商工会議所会頭、委員長に畑崎ワールド社長を迎え、来年11月20〜22日の予定で開かれる。昭和65年以後も年2回開催され継続的に情報を発信していく予定だ。主な内容は次のとおり。

- ・ファッションショー
- ・バイヤーズミートイング
- ・デザインオブザイヤー

★神戸ワールドが「創造導夢」をボーアイに建設

アパレルファッションの株式会社ワールドが「ポート・アイランド内ファッションタウン」にクリエイティブ・イン活動の心臓部となるビル「創造導夢」(ファッション・クリエイティブ・ドーム)の建設を開始した。

同ビルはファッションに関するあらゆる情報の発信拠点を目指したもので、コンピュータ完備のファッション関係の文献や資料を

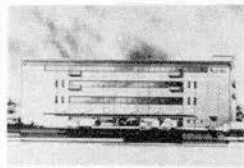


創造導夢の完成予想図

数万冊時系列的に管理したファッションライブラリーのほか二年先の流行を予測するファッショントレンド

ルームなどまさにクリエイション基地と言える陣容になっている。完成は64年6月末の予定。

★シャルレ・西部物流センター建設着工



下着の専門メーカーのシャルレ・須磨区流通業の神戸

務団地内に物流センターを建設、来年8月をメドに稼働を開始することになった。同センターは敷地面積8千400㎡、4階建延床面積1万1千400㎡と広大なもの。主要設備にはイタリア製の最新式高速自動仕分け機を導入、これにより、作業能率のアップ、精度のアップ、人員の削減、在庫管理の簡略化と精度アップ、

物流経費の削減などの合理化が可能になる。

所在地 神戸市須磨区弥栄台三丁目一番二号

★来年度神戸JIC理事長に

松田副理事長が内定

社団法人神戸青年会議所(西村理・理事長)の来年度理事長に住宅設備機器卸の丸与産業株式会社専務・松田茂樹さん(昭和25年7月生)が内定した。同氏は昭和48年に関西学院大学商学部を卒業後、父・貫之氏が経営する丸与産業に入社。取締役を経て58年から現職。神戸JICには56年に入会後、常務理事、専務理事を歴任。

本年度は副理事長、兵庫ブロック協議会会長を務めて



松田茂樹氏 協議会会長を務めて

★KOBEOフィステイ★

岡本 立里さん(24) <UCCコーヒ> 博物館館員



明るく気さくなお嬢さん。VIPや得意先の方々の案内が主な仕事で昨年博物館が開館以来勤務している。休日は水泳、エアロビクス、ドライブなど活動的に過ごす反面、華道もたしなむ。「休日が月曜なので友達と一緒に休みがとれないのが少し残念」とか。「風と共に去りぬ」でおなじみの「Tomorrow is another day」が好きな言葉。前向きの性格の彼女にピッタリだ。

宝塚市在住さそり座のA型。



青木 幸夫 代表取締役

★これからの商業不動産

親は裁判官

青木 幸夫 夫 (株式会社エルアイシー 代表取締役)

。不動産の相続は大問題

ここ数年の土地の急激な値上がりのために、様々な問題が生じています。例えば土地ころがし、地上げ、それにまつわるいろいろないやがらせなど。また、こういった社会面をにぎわす問題の他に、土地を持つている人が頭を悩まされることに、遺産の相続の問題があります。

例えば若屋、東灘で200坪、300坪の土地に住んでいる人は相続税が大変な額となります。そうするとせっかく受け継いだ土地を切り売りしたり、少なからぬ借金を背負いこんだりしなければなりません。これは相続人も何か

ふにおちない気持ちが残りますし、生前一生懸命働いて財産を残した方もうかばれません。ですから事前の処置が非常に重要となります。例えば生前借金をして自分の土地に商業ビルなり店舗付マンション、あるいは一般のマンションなりを建設して、収益物件を形成しておくということもありますし、売却して分散すれば税金対策にもなります。

またこれらのことは相続人の口からはいいだしにくいことですので、親が人生のけじめとして、きちんと処置を決めているとみんなに感謝もされ、いっそう尊敬されるのです。

親は裁判官なのです。適切な判断を下さなければなりません。私どもがお手伝いします。

。創業者オーナーも裁判官

企業にも同じことがいえます。創業者オーナーは自分の人生のけじめだけでなく、その企業内でのけじめもつけないければならないのです。内部の紛争を招かないためにも、自分の後継者とうまくバトンタッチできれば、ゆうゆうとした余生が楽しめるわけです。そして家庭の場合と同じように、専務、常務はやはり気を使いますから、創業者オーナーがきつちりと方針を決めておかなければならないのです。そうすることによって、信頼を深めることにもなります。

。専門家の適切なアドバイス

弁護士や信託銀行に相談してもどうすればいいのかという方針は出してくれませんが、実際それを実行してはくれません。不動産にかかわる部分がかなりの比重を占めますから、専門家の力が必要となります。

創業者オーナーも裁判官です。

全てを事前決めなければなりません。私どもにお手伝いさせて下さい。

株式会社エルアイシー

神戸市中央区港島中町6丁目9番地の1
ポートアイランド国際交流会館7F
(078) 302-4009

第12回

井植文化賞

戦後、日本の復興と繁栄に大きな足跡を残した三洋電機株式会社の創設者、故井植歳男氏の遺志によって昭和44年11月に設立された財団法人「井植記念会」が、兵庫県在住または兵庫県にゆかりの深い人のなから、めざましい活躍をされた人を受賞の対象としてその功績を讃えるとともに、地域社会のより一層の発展に寄与したいと考え、この「井植文化賞」6部門を設定しました。今回で第12回を数え、各分野の評論家、学識経験者などをもって部門ごとに構成される選考委員会によって、次のように決定しました。受賞者には副賞として賞金・個人30万円、団体50万円、さらにライオンのプロンズ像が贈られます。

□ 国際交流部門



神戸日本チリ協会

〈会長ダゴベルト・メリリアン・ハラ〉
事務局長・メリリアン・色満子

「神戸日本チリ協会」は、昭和56年11月に「神戸チリアン倶楽部」として発足。チリをはじめラテンアメリカ各国と日本との文化交流、ボランティア活動を通じての親善に努めている。昭和60年大噴火に見舞われたコロンビアやチリその他ブラジルに古着を贈る活動は今も続けている。

□ 報道出版部門



武下 優

△「収録港湾労働神戸港」編集委員長▽

大正3年香川県生まれ。丸亀高校卒業後、厚生省勤労局入省。一貫して、港湾・建築等の労働問題に携わり、昭和48年より神戸港湾福利厚生協会に専務理事として就任。そして昭和58年から本著執筆のため、編集委員長に。港湾労働に40年間関わってきた著者ならではの記録となった。

□ 文化芸術部門



青木はるみ （詩人）

1933年神戸市生まれ。現在は奈良市在住。1953年、兵庫県仁川ドレスメーカー女学院師範科卒業。本格的な詩作は結婚後から。1982年度日氏賞受賞（詩集『鯨のアタマが立っていた』）。現在「たうろす」同人。神戸市民の学校他、近畿一円のカルチャーセンター講師を勤める。

□ 科学技術部門



かや 賀谷 信幸 （神戸大学工学部助教授、工学博士）
（宇宙科学研究所客員助教授）

昭和24年8月5日生まれ。昭和48年京都大学工学部電気工学科卒業、50年同大学院工学研究科修士課程修了。現在、神戸大学工学部助教授であり、また、今年4月より文部省宇宙科学研究所太陽系プラズマ研究系客員助教授として活躍中。今後の研究成果が大いに期待される。

□ 社会福祉部門



誕生日ありがとう運動 （代表・藤本 隆）

障害児の問題を自分のこととして一緒に考える友をつくることを構想した「誕生日ありがとう運動」は昭和40年に発足した。現在は全国に300名以上のボランティアの輪が広がり海外にも運動が広がるまでにいった。

□ 地域活動部門



尼崎市演劇連絡協議会 （代表者 吉山芳良）

昭和47年、より創造的実験的な演劇活動を展開し相互の交流をとおして演劇技術の向上を図る目的で生まれる。以後、近松作品を継続的に上演しつづけ近松ブームを引きおこし、また毎年市と共催で行う演劇祭の企画、運営等に意欲的な活動を続けている。

●第12回井植文化賞
文化芸術部門
鮮やかな感性と鋭い個性を
そなえた詩人

青木は



★選考委員

小林 武雄

<詩人>

杉山 平一

<帝塚山学院短期大名譽教授>

安水 稔和

<詩人>

今回は現代詩の分野からという
ことで、名前を挙げていって、候
補にのぼった人は十人を越えた
が、話し合ううちにごく自然に絞
られていって、青木はるみさんに
決った。

十年前、第一詩集『ダイバーズ
・クラブ』が出たときの鮮烈な印
象は今も生々しい。この一冊で青
木さんは現代詩の最前線に躍り出
た。つづく第二詩集『鯨のアタマ
が立っていた』で詩壇の芥川賞と
もいわれている日氏賞を受賞し
た。以後、ますます充実した仕事
ぶりである。

青木さんは神戸生まれの神戸育
ち。六甲や仁川に住み、結婚して
からは西宮に住んでいた。今は奈
良に移り住んでいるが、神戸の雑
居「たうろす」の同人である。先
「神戸の詩人たち」にも登場
してもらった。

青木さんの詩の愛読者は多い。
見現実から離れるようにみえて
離れない。まさに現実と非現実の
あわいから発せられるドキドキす
るようなあやうい輝やきに魅せら
れるのだ。日氏賞の選考委員長を
つとめたり、テレビに出演した
り、詩が国語の教科書に載ったり
と、話題に事欠かぬ人だが、なに
よりもまず、すぐれた書き手なの
だ。鮮やかな感性と鋭い個性をそ
なえた、生きのいい詩人なのだ。

△安水 稔和▽

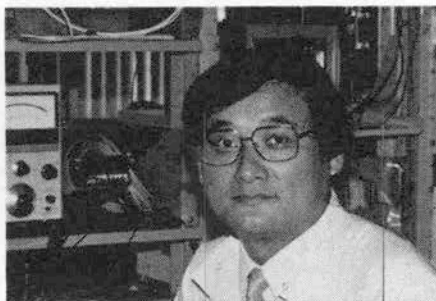
受賞者著書作品目録

(一部)

●受賞者メモリアル			
1.	河口 龍夫<現代美術>	1987年	「詩と人形のルフラ ン」沖積舎刊
2.	山田 幸平<作家>	1983年	思潮社刊
3.	横井 和子<ピアニスト>	1983年	「ひまわりを五十三 ばん切る」沖積舎刊
4.	荒木 高子<陶芸家>	1982年	「大和路のまつり」 思潮社刊
5.	多田智 満子<詩人>	1981年	「鯨のアタマが立っ ていた」思潮社刊
6.	田原 富子<ピアニスト>	1980年	西文学年間賞受賞
7.	昇 外義<画家>	1979年	作品「事故」にて関 西文学年間賞受賞
8.	安水原 稔和<詩人>	1978年	「青木はるみ詩集」 思潮社刊
9.	山延 武春<指揮者>	1975年	第一詩集『ダイバー ズクラブ』思潮社刊
10.	山沢 栄子<写真家>	1969年	雑誌「マダム」年間 最優秀賞受賞
11.	神戸 麗 ライオンズクラブ	1975年	第13回現代詩手帖賞 受賞

●第12回井植文化賞
科学技術部門

ロマン溢れる研究活動に
かやのぶゆき
賀谷信幸



★選考委員
水野 進
〈神戸大学農学部部長〉
松本 治彌
〈神戸大学工学部部長〉
杉山 武敏
〈神戸大学医学部部長〉
真鍋 正志
〈神戸新聞社常任監査役〉

同氏は本学に赴任以来、宇宙観測用のロケット及び人工衛星に搭載する観測機器の開発とそれを用いた観測を行ってきた。特に、オーロラ発光の原因とされる電子、イオンの流れはその成り立ちに不明の点が多く、その観測は地球周辺の環境の解明に非常に重要であるが、技術的に困難な点も多い。氏は国立極地研究所による南極ロケット観測、文部省宇宙科学研究所による人工衛星観測で上記の電子、イオン流観測装置を開発、搭載し、困難な観測に成功、世界に誇り得る成果を得ている。その他宇宙太陽発電のエネルギー伝送に関する基礎実験装置、スペースシャトル実験での真空計など多くの装置の開発、観測に成功している。

この種の宇宙観測はやり直しがきかず、装置には絶大な信頼性が要求され、また装置の開発、地上からの観測制御、データの取得には理、工学にわたる広範な知識と技術が必要となる。同氏はそれらに精通し、昭和64年打上げのEXOS-D衛星はじめ、わが国の人工衛星観測で、電子・イオン流の観測（最も重要な観測の一つである）の実質的な責任者として今後の活躍が大いに期待される。

△松本治彌▽

■選考経過

まず農業部系からは昨年も候補にあがった安田武司氏の名が再びあがった。氏はバイオテクノロジーの手法を用いて、種々の熱帯資源植物体再生（再分化）の機構究明に取り組み特に、コーヒーでは新しい苗大量繁殖法を確立した。

工学部系から候補にあがったのも、やはり昨年候補となった賀谷信幸氏。氏は人工衛星による観測装置の開発に、今後の活躍が期待されている。

医学部系からは微生物学の本間守男氏、内科学の馬場茂明氏、整形外科の広畑和志氏、精神神経科学の中井久夫氏、放射線医学の河野通雄氏をはじめ、多彩な人材が候補にあがった。

やはり今年も、科学技術部門に於て医・農の異なる三分野の研究者を比較検討するのは困難さを伴うとの声が出たが、最終的に夢のあるスケールの大きな研究が評価され、賀谷信幸氏に決定した。

●受賞者メモリアル

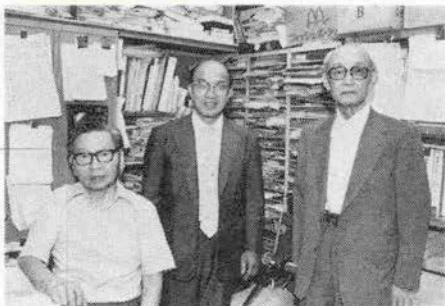
1. 櫻井 春輔 〈岩盤力学〉
2. 杉山 武敏 〈遺伝子学〉
3. 土田 広信 〈農芸化学〉
4. 嶋田 勝次 〈都市計画・建築学〉
5. 沢村 誠志 〈障害者の社会復帰〉
6. 安藤 四一 〈音響の研究〉
7. 辻 莊一 〈家畜育種学〉
8. 西塚 泰美 〈生理学〉
9. 中岡 睦雄 〈パワートラックス〉
10. 清水 晃 〈微生物生態学〉
11. 岡田 安弘 〈生理学〉

●第12回井植文化賞

社会福祉部門

草の根福祉を全国に広げた

誕生日あり がとう運動



★選考委員

服部 正

<松蔭女子学院大学教授>

津田 元

<神戸新聞社論説副委員長>

野上 文夫

<兵庫県社会福祉協議会
企画情報センター所長>

昭和三十七年、始めて障害児学級を担当した藤本隆さんは、親やきょうだいの深刻な悩みと社会の偏見と差別の根強さに驚きと怒りを痛感した。「ちえおくれの問題をみんなのものに」することが重要と考え、年に一度めぐってくる誕生日に、ちえおくれの問題を自分のこととして一緒に考える友をつくることを構想した。誕生日ありがとう運動はこうして昭和四十年五月八日に発足した。

運動にあたっては、すべてボランティアで進めることとし、藤本さんも毎日学校を終えると事務局に直行し、その先頭にたった。

こうして現在では本部ボランティア七〇名、全国各地で活動するボランティア三百名、「友の会」は全国で十五カ所に広がってきて、それぞれが具体的な啓発活動が続けている。

この運動への参加者は、生まれたばかりの赤ちゃんから八十過ぎの老人までの幅広い層の参加と、保育所、幼稚園の誕生会、学校、会社、社協などの団体、グループなど、個人と組織が広く参加していることが特徴。さらにアメリカ、イギリス、マレーシア、韓国にも運動は根つき、この間二十万件、六千六百余万円の成果が得られたが、何よりも一人一人の福祉の心を根づかせた意義は大きい。

△野上文夫△

■選考経過

今回は三つの団体が候補にあった。「誕生日ありがとう運動」「兵庫ボランティア協会」「老人看護グループオーロラ」。このうち「兵庫ボランティア協会」は15年以上にわたる地道な活動が評価され、「老人看護グループオーロラ」(尼崎市)は、60歳以上の老人が、看護を必要とする他の老人の世話をする、という活動を続けてきたことが評価を得たが、最終的には全員の推挙で「誕生日ありがとう運動」の社会福祉部門受賞が決定した。

「誕生日ありがとう運動」は20年以上にわたる地道な活動を続けてきたが、その活動の成果として全国十五カ所に及ぶ「友の会」の設立、また海外数カ国にもその運動が定着した。

これらのことが選考会で多大な評価を得、今回の受賞のはこびとになった。

●受賞者メモリアル

1. 福来 二郎
2. 小畑 延子
3. 神戸市立友生養護学校
4. 春本 幸繁
5. 富永 繁男
6. 神戸大学看護ボランティア
7. 米田 寛子
8. 神戸東部地域実施委員会
入浴サービス
9. 涌井 安太郎
10. 山本 博繁
11. エリア会、OHP こうべ

●第12回井植文化賞

地域活動部門

地域に密着した
創造活動

『尼崎市演劇
連絡協議会』



★選考委員

一谷定之丞

<園田学園理事長>

今井 仙三

<丸山地区住民自治協議会名誉会長>

長島 晴雄

<前神戸新聞監査役>

尼崎は近松門左衛門ゆかりの地であり、いま全市をあげて「近松のまち」をめざしている。今年も九月から十一月の三ヶ月間「近松ナウ」と銘打って、中村扇雀主宰「近松座」公演、国立文楽劇場による「文楽の夕べ」、近松作品を空工場で継続的に上演している「劇団螺線館」の公演など市内の劇団も参加し、各会場で行われる。このような、「近松ナウ」が展開され得るのも、尼崎市演劇連絡協議会（以下「尼演連」と呼ぶ）の十六年に亘る活動の下地に負うところが大きい。

尼演連は、尼崎市が昭和二十七年から行ってきた演劇競演会の二十年の歴史の中から、昭和四十七年十一月に誕生した。以来、毎年市と共催で行う演劇祭の企画、運営など自ら創り出す演劇祭として意欲的な公演を続ける一方、これまでの舞台公演のノウハウを生かし、十以上の異ジャンルの文化団体が合同で尼崎の個性と魅力の創造を図る「創作芸術への誘い」の舞台進行の援助なども行っている。

加盟劇団は19団体あり、その体験と力量をぶつけ合う合同公演も回を重ね好評を得てきた。「地域に密着した創造活動」を旨とし、尼崎に残る民話を舞台化した「流水記」など総力をあげ取り組み、ふる里再発見を試みるなど地域に根ざした活動を続けている。

また、この秋行われる国民文化祭への参加も予定され、多方面にわたる活動は、益々、文化とコミュニティの輪を広げてくれることと期待している。△一谷定之丞▽

■選考経過

地域活動というものは町づくりの中で自分たちの地域の条件や個性を反映した理念を自主的につくり、実行していくことをいう。この限定された地域に於ける貢献度という意味から、丸山地区住民自治協議会の長寿村が、今回候補に上がった。ただ「井植文化賞」をもっと広く万民にという事を考えると丸山地区住民自治協議会は第9回に受賞をしている。

そういうことを踏まえて候補に上がってきたのが、尼崎市演劇連絡協議会。近年全国的ブームとなりつつある近松ブームの火付け役であり、毎年の演劇祭の開催、演劇技術向上のためのセミナー開催、十以上の異種ジャンル合同の舞台進行の援助という活動を昭和47年より長年にわたって行なってきたことが受賞理由となった。

●受賞者メモリアル

1. 城崎郡日高町
2. 明石市民のコミュニティ活動
3. 一宮町文化協会
4. 尼崎郷土史研究会
5. 尻池南部地区自治連合協議会
6. 月刊神戸っ子
7. 明延ふるさとづくりの会
8. KICS
9. 丸山地区住民自治協議会
10. アンドレ・ブリューネ
11. 神戸新聞文化センター

●第12回井植文化賞

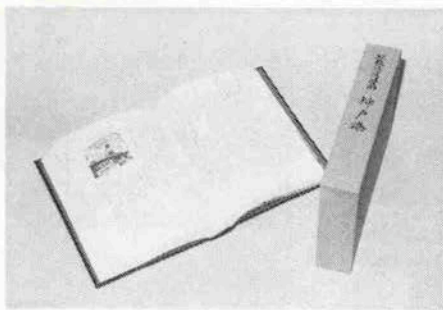
報道出版部門

貴重な記録

『収録港湾労働』

神戸港』

武下 優



★選考委員

山崎 進

<ラジオ関西神代代表取締役>

藤原 良雄

<NHK神戸放送局長>

崎山 昌廣

<神戸新聞論説委員長>

「港」という字は「水際のちまた」と書く。人間くささと潮風とが混じりあったにぎわいこそ、港町らしさというものだろう。かつての神戸港は典型的な「水際のちまた」であった。

港にムンムンしていた人間臭さと潮風の中には華やかな夢やロマンもあれば、涙と汗と血と油もいっぱい含まれていた。コンテナとオートメーションで機械化、合理化そして無人化が進む以前の神戸港で、港の機能と活力の重要な担い手であった港湾労働者の存在を忘れるわけにはいかない。

その神戸港で働く人々の姿がめっきり減り始めて久しい。「沖のかめもと人足さんは、港、港の渡り鳥」の仕事うたの名調子や陽気なかけ声ももう聞こえない。機械化、合理化は時代の必然的な流れとはいえ、また過酷な重労働や暴力団の暗躍から解放されたのも大きなプラスとはいえず、人気の失せた港はどこか寂しい。

『収録港湾労働 神戸港』は港で働いた人たちの貴重な歴史の記録だ。証言や資料を集めるにも恐らく今がラスト・チャンスだったろうが、まとめ役に港の生字引・武下優さんを得たのが大きい。開港百二十周年を経て「水際のちまた」の再生をめざす神戸港の明日の発展に大いに役立てたい。

△崎山昌廣△

■選考経過

数多くの情報が溢れている現代においては、かなり強烈なインパクトを与えないと、報道部門での選考はむずかしい。この点から今回の選考は出版部門からの候補に意見が集中した。

まず朝日新聞神戸支局から出された「風と歩く」。兵庫県内の「いい風景」を誌面で公募、選ばれた一〇〇景の連載記事をまとめあげたものである。

今後の展開が期待されるとしてラジオ関西開局35周年を記念して発刊された「ひょうご経済人100人」。兵庫経済をリードする経営者たちの哲学に触れられる一冊。そして非常に地味ながらも貴重な資料としてあげられたのが、『収録港湾労働 神戸港』。近代化に伴って過去のものとなってしまった。港湾労働という観点から神戸港の歴史をまとめあげている。隠された神戸港の一面を残す記録としても評価は高く全員一致で決定となった。

●受賞者メモリアル

1. 「あなたの愛の手を」
2. 神戸空襲を記録する会
3. 落合 重信
4. 春木 一夫
5. 「兵庫探検」「兵庫史を歩く」
6. 「神戸の中堅150社」
7. 神戸新聞淡路総局「淡路祭事記」
8. 「神戸からこんにちは」
9. 「天津からこんにちは」
9. 神楽根郷「峰相記」
10. 「私たちの昭和史」
11. 「バルモア病院日記」・スタジオ TODAY ホットに語ろう!

●第12回井植文化賞
国際交流部門

中南米各国との交流を図る
草の根的活動団体

神戸日本チリ協会



★選考委員

新野幸次郎

<神戸大学学長>

小笠原 暁

<芦屋大学教授>

長島 隆

<神戸地下街紳士社長>

宇都宮 浩

<兵庫県海外協会常任理事>

このご夫婦は、昭和四十九年以來、東洋唯一のチリ・レストランを経営しておられる方であるが、実は神戸日本チリ協会の会長と事務局長でもある。協会そのものは昭和五十六年十一月、神戸チリアン倶楽部としてスタートした。多くのこの種の協会が著名な日本人団体の長や団体そのものの支援を得て運営されているのに、お二人は文字通り独力で出発された。熱心なカトリック教徒であるお二人は困っている人を見聞きすると放っておけない。老人ホームなどを訪れてはお主人が歌い、奥さんが踊るといったことを積み重ねられてきたほか、ラテン・アメリカ諸国の身体障害者やチリ・メキシコなどでの地震被害者の救援活動に積極的に取組んでこられた。また日本にきているラテン・アメリカ人たちの「駆け込み寺」的機能も果たしておられるなど、その活動は地味ではあるが、継続的で意欲的である。中でも、奥さんが五年前にはチリの大統領・副大統領に会見され、のちに有名な帆船エスメラルダ号が来神することとなり、神戸市民との交流を深めたことは記憶に新しい。神戸市間に沢山ある国際友好協会の中でも文字通り草の根的活動団体といえよう。お二人に幸あれ。

△新野幸次郎▽

■選考経過

昨年度より設けられた「国際交流部門」には、毎年2名の留学生に奨学金を出し、県下のライオンズクラブにも拡充を働きかけている神戸ライオンズクラブ、留学生問題が何かと話題になっている昨今、留学生生ホストファミリープログラム事務局を設けて積極的に取り組む神戸YMCAクロス・カルチュラル・センターが昨年引き続き候補に挙げられた。また、チリ、コロンビア、中南米各地に救援物資を送るボランティア活動を地道に続ける神戸日本チリ協会。

昨年は神戸開港120周年にあたりチリ国帆船エスメラルダを招待する活動も、外国人に対する善意通訳を提供し、日本文化の紹介をする神戸ボランティアグッドウィルガイズやユニバーシアード神戸大会に11名の選手を招聘した神戸ブータン友好協会、ミクロネシア島々の学校を支援するための募金活動を行なうフレンド・マイクロネシアは神戸に本部を置き将来性が評価された。

以上の中から、神戸日本チリ協会の暖かい活動が認められ、同協会のダゴベルト・メリリアン・ハラ、メリリアン・一色満子ご夫妻に贈られることになった。

●受賞者メモリアル

1、加藤一郎（神戸日本チリ協会名誉会長）
・神戸大学名誉教授